日本語ボランティア活動報告

JCTIC
（マレーシア：コタキナバル）

藤崎秀昭（埼玉県さいたま市）

滞在期間：2018 年 4 月 12 日～7 月 2 日（82 日間）
活動場所：マレーシア、コタキナバル（KK）JCTIC

1. JCTIC の活動

JCTIC はＫＫ市内にある私立の日本語学校で、創立は 2000 年、今年で 18 年目を迎える。学校は市内のほぼ中心部にある Star City（or Asia City）Complex（複合ビル）の 2F の一角にある。教室（10 人位が入れるサイズ）は 2 つ、そのうちの 1 つを使用して WSC が教えている。

WSC 担当の授業は、月曜～金曜の夕方～夜にかけての時間帯である。土曜日クラスもあり、これを WSC が担当することもある。最近では、土曜日クラスの希望者が増えてきているとのことである。

Text は、「みんなの日本語」（スリーエー・ネットワーク）を使用する。WSC 担当は 4 コースがある。

①「月・水・金」（週 3 日）PM5:50～7:20(90 分)
②「月・水・金」（週 3 日）PM7:30～9:00(90 分)
③「火・木」　（週 2 日）PM5:50～7:20(90 分)
④「火・木」　（週 2 日）PM7:30～9:00(90 分)

教室外観

2. 授業での活動内容

私は民間会社を定年退職後、第 2 の人生の仕事として日本語教師を選んだ。日本語教師養成学校終了後、ベトナムで 3 年間日本語学校で教えて帰国後、WSC を知り JCTIC に来たというのが経緯である。

私にとり JCTIC は初めてで、すでに経験しておられた佐藤さんの授業を 1､2 回見せていただいてから、スタートした。私は、「火・木」コースの 5：50 コースと 7:30 コースのクラスを担当することになった。

5：50 クラスは「みんなの日本語、初級Ｉ」の 4 課からであった。学習者は 5 人。姉妹の子、車で 2 時間かけてくる子、ニカーブを被っている子などさまざまである。授業は「教え方の手引き」に則って行い、「翻訳・文法解説英語版」を併用し、あとは「聴解タスク」「漢字練習帳」を活用して行った。「文型練習帳」を宿題にし、「標準問題集」をテストとして使用した。「教え方の手引き」に則って授業するが、自分なりの教案は作らなければならず、初めのうちは結構たいへんであった。

7：30 クラスは「みんなの日本語」に入る前段階の入門的教科書「Japanese for Young people」を使ったところから入った。学習者は 8 人で、ほぼ教室一杯。こちらの方には「教え方の手引き」はなく、100%自分で教案を作らなければならなかった。

1 個月位経ったころ、佐藤さんが帰国することになり、「月・水・金」の 7:30 コースの方も担当することになり，1 週間毎日が授業となった。土・日にまとめて、1 週間分の教案の素案を作り、当日に仕上げて授業に臨むというペースである。後半の 1 ヶ月に、新たに荒井さんが来られたので、担当は半分になり少し余裕を持てるようになった。

学習者は中学生、高校生、大学生、そして仕事をしている人達、主婦の人とさまざま。遠くは車で 2 時間くらいかけてくる人もあり、授業を終わって家へ帰るのは随分遅くなると思われ、授業への位置付けを再認識させられるものであった。学習者に日本語を勉強する目的を聞いてみると､いつか日本に行ってみたい(観光、留学、仕事など)、また、「大学に入ってから日本語を第二外国語（第一は英語）として勉強するつもりだから､前もってここで日本語を勉強している。」など、さまざまであった。夜遅くなってからの授業でもあるので、息抜きも交えながらの授業も必要であった。

私の担当したクラス

いずれにしても、学習者はそれぞれの立場で一生懸命に学習に取り組んでおり、短期間（3 個月）の授業ではあるが、教えるに当たっての真剣さの必要性をし

みじみと痛感させられるものであった。

日本語の指導に当たって、「教え方の手引き」があるが、実際に授業をする場合、その手引きを直接見ながら授業をするというわけにはいかない。「手引き」に書き込む、自分なりの教案を作りそれに基づいて進めることになる。学生は授業料を払ってきているので、教えるほうもそれなりの覚悟が必要となる。

日本での経験として、少なくともボランティアなどで何らかの「日本語指導」経験、あるいは市町村が行っている「日本語指導」講習などを受講するなどが必要と思います。

3. KK(コタキナバル)について

東マレーシア（ボルネオ島）、サバ州の州都。人口は約 50 万人と言われている。気温は年間を通してほぼ一定で、一日の最高気温は年間平均で 31 度 C（暑いときの気温はかなりの温度になっていると思われる）、最低の平均は 24 度 C である。しかし、海岸に接しているので風があるときは日陰に入ると比較的快適な感じとなる。

大きなショッピング・モールや市場もあり、買い物にはほとんど不自由はしない。日本食材の店もあり（小さいが）、ダイソー（うどん・そばもあり）もあり便利である。

4. コンドミニアムでの生活

宿舎は大きなコンドミニアムであるマリーナ・コートで、11F にある 3LDK の部屋（氏原さん所有）で、1 人ずつ 1 個室を使用するというものである。設備は十分整っていて、日常生活に困ることはない。

KK市街

食事は、初めのうちほとんど自炊をしていました。設備的には問題ないし、食材もほとんどスーパーや市場で購入できるからです。ただし、調味料のうち日本のものである、みそ、みりんなどは遠くまで買いに行かなければならず、かつ高いのです。価格は日本の 2～3 倍、日本から輸入で関税がかかっているためです。みりんは、なかなか手に入りません。しかし岡村先生（JCTIC 所有者）、氏原さん、佐藤さん、荒井さんに美味しい食べ物の店を教えてもらい、外食もできるようになり、バラエティーのある食生活を楽しめるようになった。又、学生から美味しい食べ物や場所を教えてもらうこともできた。やはり、現地の人に教えてもらうのが一番です。

マリーナ・コート

5. 余暇の楽しみ

マリーナ・コートにはジム、プールの設備があり、運動に活用した。ジムの設備は少々メンテナンスに難があったが、プールはよくメンテされていて快適であった。卓球をしたかったのだが、氏原さんに設備の在る所までは教えてもらったのだが、活用するまでは至らなかった。

観光では、まず市内にあるサバ州観光局へ行き観光案内地図を手に入れ、歩いて市内観光をした。KK 市内を一望できる展望台シグナル・ヒル展望台へ行き市を一望。サバ州立博物館、キナバル山にも行きたかったが今回はパス。代わって路線バスを使った郊外バスでの小旅行を楽しんだ。混沌とした市内に比べて郊外は広々とした大自然、道路もよく整備されており大変感じが良かった。

KK 郊外にある日本人学校へも行ってみた。創立 35 年目とのこと。4 階建ての立派な校舎で、3 代目の校舎とのこと。校長先生にお会いすることができたので、お話を伺った。現在の在校生数は 20 名（小中学校合わせて）で、国際結婚した家庭の子が多いとのことでした。

キナバル日本人学校

最後に

JCTIC の岡村先生には公私にわたり面倒を見ていただき、厚くお礼を申し上げたい。また、マリーナ・コートの所有者である氏原さんご夫妻には食事のお誘い（いろいろなレストランへ案内をしていただいた）、健康に気を使って頂くなど大変にお世話になりました。ここで厚くお礼を申し上げたいと思います。